

# NEWS



特定非営利活動法人 しみん基金・こうべ

〒651-0095 神戸市中央区旭通1-1-1-203 (サンピア2F)

TEL078-230-9774 FAX078-230-9786

E-Mail kikin@stylebuilt.co.jp URL <http://www.stylebuilt.co.jp/kikin/>

平素から「しみん基金・こうべ」の発展にご尽力を賜り厚く御礼を申し上げます。いよいよ新しい世紀に入りました。1月1日の神奈川新聞で「NPOに百億円のお年玉」という記事がでました。残念ながら現在乏しい財源の当基金の理事の一人として「晴天の霹靂」でした。考えてみれば「知恵をだせば、金はあるもんだ!」ということを教えて貰ったようなもので、私にとってはそれがいいお年玉になったようです。

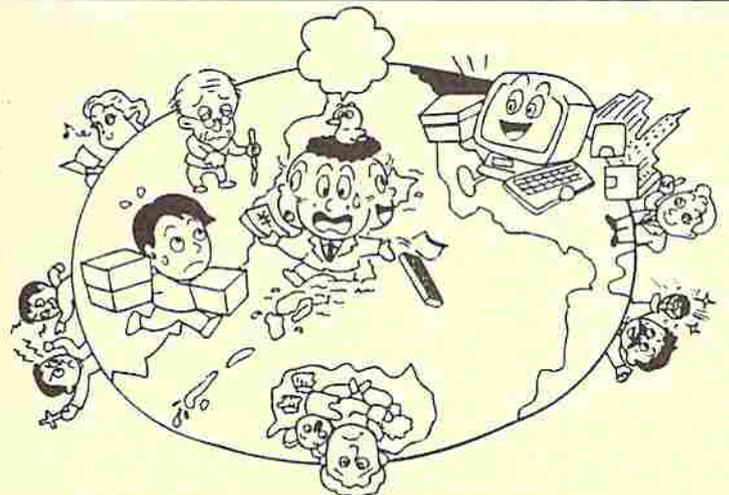
「市民が市民活動を支える基金」として日本でも最初の画期的なしくみとして設立した基金が「しみん基金・KOBE」で、つまり市民一人ひとりの小さな寄付行為が集まり、市民活動を財源面で支えることで社会貢献活動をしようというものです。

「ウオーク」をはじめ、しみん基金・KOBEへの募金を目的とした草の根活動も増えつつあります。市民一人ひとりの寄付行為を活性化するためにも、募金活動を運動に展開することが大切です。アメリカでは日常的に取り組まれていることですが、例えば企業では朝礼時や昼食時に「募金活動タイム」を設け、社内をまわるといような社会貢献活動が育つていでしょう。あるいは、社会貢献価値として商品に10円や50円を上乘せし、その部分を市民活動の支援に充当するという形で、消費者にアピールするという方法もあります。この場合、消費者が社会貢献をしていない企業の商品は買わないというくらの消費者側の成熟した意識が醸成されなければなりません。過激な発言かとも思われるかも知れませんが、欧米ではごく普通の現象でもあるのです。

副理事長 村井雅清



## 目次



\* 第3回こうべウオーク

\* 平成12年度第1回助成事業

\* 平成12年度第2回助成事業

\* もいちど出会えて

ありがとう支援事業

\* コンサート報告

\* 理事の横顔

\* ご寄付いただいた方々

\* お知らせ・あとがき

# 第3回「こうべーウォーク」

平成13年1月14日、長田区の大国公園をスタートし、中央区の東遊園地までの約10キロの道程を震災当時を振り返りながら歩くというチャリティウォーク「こうべーウォーク」が開催されました。参加者総数は1800人、参加費として持ち寄っていた募金が総額200万円。この募金全額が、しみん基金・こうべーウォークに寄付されました。

## ウォーク 西と東

今年1月、震災関連で東と西の2箇所ウォークが開催された。西は神戸（あいウォーク）で、今年で3回目になる。この趣旨は、震災を契機に盛り上がった自発的な市民活動を支援するための募金にあり、参加費は「しみん基金こうべー」に全額寄付することになっている。東は実質的に兵庫県が主催する「メモリアルウォーク」で、慰霊と震災教訓の継承を目的に関係団体を動員した行事であった。同じウォークでありながら、これほど対照的なイベントも珍しい。片方は地元の大・高小の学生・生徒がにこやかに浴道で誘導に当り、片方は県庁職員とおぼしき仏頂面の誘導員が無言で看視する。あるいは西では自発的に名乗り出た地元団体が温かいぜんざいや鍋物をサーブし、チャリダーの思わず息を呑む演技が参加者を激励するのに対し、東では参加者がバケツリレーや救命訓練の実演を見向きもせず黙々と通り過ぎる。これだけ見れば西の圧勝のように聞こえるが、現実には参加者数も募金額も小雨交じりの悪天候であった昨年を下回り、官が割って入ったことにより民が少なからぬ影響を蒙ったことは明らかである。予算規模も動員の圧力も文字通り桁が違うから当然かもしれないが、このままでは元祖の灯が消えかねない。



しかし、スケールとなると太平洋の東と西では大違いである。あいウォークがお手本とした本家「エイズウォーク」の状況を見てみよう。16年前、ロスアンゼルスで始まったエイズウォークは、今では全米35都市に広がった。このうち最大のニューヨークでは参加者が4万人、募金額は5億円に及ぶ。第2位はサンフランシスコで、参加者2.5万人、募金額は4億円、第3位がロスアンゼルスで参加者2.6万人、募金額3億円となっている。  
(URL: www.aidswalk.com) 規模はともかく、われわれが太刀打ちできない点が少なくとも2つある。第1に、多くのアメリカ都市では10キロのコースを都心から遠からぬ公園内に設定できることであり、第2は、1人あたり募金額の10倍の違いである。実は両方ともわが国における「公」の貧しさを反映するもので、官と民でいがみ合っても惨めになるだけだが、第2の点では努力の余地がありそうだ。アメリカの場合、チーム参加が募金の鍵になっている。ニューヨークでは、チームの規模は5人から千人までさまざまだが、各チームは家族、友人、同僚から募金を集める。それだけでなく、それぞれのチームが集めた金額と同じ額を所属企業が寄付するマッチング・ファンドの仕組みを活用している。あいウォークの場合、協賛企業からの広告料が運営費の大半を賄っているが、これまで協賛企業と個人参加者の間に直接の関係はなかった。しかし、今回は関西電力とP&Gの両社の好意により団体参加の新しい仕組みが作られた。ただし、こうした募金イベントはなかなか定着しにくいのが現状である。しみん基金・KOBEが先鞭をつけて、熱心に活動している団体に善意の資金が安定的に流れる仕組みを開発されることを期待する。

神戸ウォーク実行委員長 小森星児

### ウォーク実行委員会 構成メンバーの皆さん

- 池田英喜
- 上田耕蔵
- 岡田明
- 喜多陽太郎
- 小森星児
- 島田誠
- 田村太郎
- 野崎隆一
- 細川裕子
- 三谷真
- 村上忠孝
- 森栗茂一
- 神戸市市民活動支援課



皆様、ご協力ありがとうございました。



ウォークのようす





小雪が舞う中、iウオークのゴール地点(三宮東遊園地)では「しみん基金・こうべ」にご協力下さっている団体やこれまでに助成した団体が、炊き出しやブース出展による団体の活動紹介をしてウオーク参加者の方々を出迎えました。皆様、ご協力ありがとうございました。

◆兵庫コープ福祉ボランティアセンター イベント支援チーム

ゴール東遊園地での豚汁づくり  
「ご苦労様でした。あったかい豚汁をどうぞ！」  
ゴールの三宮東遊園地で、豚汁700食を作り、時々小雪の舞う中、長田区鷹取を振り出しに、被災地を歩いて来た人々の笑顔が、私達にも震災当時を思い起こさせてくれました。あれから6年が経ちました。当時は避難所となっていた小・中学校の校庭や、あちこちの公園などで、豚汁やおでんの炊き出しをしました。「いっしょに元気をだしてがんばろう！」という思いからです。それ以来私達の活動は続いています。「住み良いまち神戸」の復興を願いながら、  
今回しみん基金・こうべを支援する「こうべiウオーク」に、このような形で参加できて嬉しく思いました。  
(井上倫代)



炊き出しのようす

◆阪神高齢者・障害者支援ネットワーク

iウオークII暖かい愛IIせんざい  
あずき、砂糖、器などの準備が始まる。せんざいに入れるお餅も搗こう。1月13日(前日)当団体のスタッフに加えて、手伝いの人々が西区の事務所に集まる。景気の良い掛け声と共に、どんどんお餅が揚ぎ上がる。用意できた丸子餅1000個。一方であずきを炊く良い香りがする。19時、準備と片付け完了。明日が楽しみ!! 1月14日六甲おろしの風にコンロの火が消えたり、時おり雪(風花?)が舞ったり、神戸の冬に相応しいキリッとした寒い日だったが、何千人もの市民がこうしたイベントに参加し、10kmの道程を歩いて神戸のまちを見て、復興への思いを新たにしているということがゴールで待つている私たちの心を暖かくしていた。最終ウオーカーの方々や沿道でお世話にあたったボランティアの皆さんに味わって頂けなかったことが心残りな1月14日だった。  
(宇都 幸子)

◆COM総合福祉研究所

目と足で復興確かめ軽々と歩み続けて  
ゴールイン  
待っていたのはほかほかのお雑煮、豚汁、ミニブリス。「花より団子」で活動の紹介チラシを渡しても注目されず。に素通りで厚い手袋受け取りにくそう。「いかがですか」の呼び声も肌切る風が消され気味。お隣のブリスの方と話が増え、又会うことを期待して友人満たされてこうべiウオークありがとう。(土屋博子)

◆ポリオの女性の会

ビュービュー。口笛ではありません。  
風の音です。持っていたピラを押さえながらの出演でした。本当に寒い一日。でも、たくさんの人たちの温かい思いが会場にあふれ、豚汁もおさんざいも熱々。出展に備えて作っていたポスター、事務所に飾っています。ちやっかり頂いて帰った私達の会のプレートといっしょに。グループ紹介の良き機会をあたえていただき、ありがとうございます。(柴田たえ)

◆小規模作業所ラムア準備会

今回iウオークに初めて参加しました。市民の私たちは10kmのウオーキングとゴールでのパネルによる活動紹介をさせて頂きました。当日は小雪がちらつく寒い日でしたが鷹取から三宮まで歩く参加者の方々の姿を見ると、「こんなに多くの方が市民活動を応援しているんだ」と大変元気づけられました。また私自身も歩きながらまだまだ復興途上の神戸の街を見て「生活復興」なんてほど遠いなあと今さらですが肌で感じました。(西川良一)

◆被災地NGO協働センター

厳しい寒さの中、皆さんお疲れさまでした。参加者の中には、去年東海豪雨水害で被災にあった被災者の方もいらっしゃいました。KOBENの人たちにたくさんの方々の支援を頂き、お礼のつもりで来てみたいと、わざわざ参加して下さいました。「洪水では全てが流され、建物は残っても住める状態ではなく、今は何もない状態です。これらの洋服(当日着ていた服)も全部買物です。まだまだこれからです」と言っていました。とても印象的でした。今年に入っても災害が相次ぎ、あつと言間に過去の出来事として忘れ去られてしまふ情報社会の中で、罪のない多くの尊い命が奪われていきます。この現実を風化させないで次世代に引き継ぐことが支え合いの社会や安全な社会を築き、一人でも多くの命を救うことに繋がるのではないのでしょうか。主催者側にとっては、現場での統制やゴールにいられた方のブース紹介やコンサートの紹介がもう少し徹底していただけて、過去の出来事として忘れられないためにも、日常の中で思い続けられるようなきっかけづくりになると思いました。(増島智子)



ブース出展のようす

# 平成12年度第1回助成事業

## 総額300万円

どんな団体で、どんな事業なのか？  
助成金はどのように使われたのか？  
各助成団体からの報告です。

### 一般申請合格団体より 2団体

#### ポリオの女性の会

「ポリオの女性の会」の柴田と申します。しみん基金・こうべから517000円の助成金を頂き印刷機を購入しました。私達の会は、昭和25年から35年にかけて大流行した脊髄性小児マヒにかり、手や足に後遺症を持つ者の会です。いわゆるセルフヘルプグループです。震災の年に立ち上げました。「女性の会」となっていますが、最近の男性会員も増えていきます。年に4回の会報発行と、2回の例会が主な活動です。全員フットワークがよくない(?)ため、会報での情報交換は重要です。毎回かなりの厚さのものを作っていました。また、会員の増加に伴い、発行部数も増えました。そこで、大活躍してくれるのが印刷機です。印刷機を購入してからは、事務所で少しづつ印刷できるので、障害の程度にかかわらず、全員印刷の作業ができるようになりました。本当に楽になりました。会報のバックナンバーも随時増刷して、希望者に送ることが出来ます。しみん基金・こうべには本当に感謝しています。(柴田多恵)

#### グループホームやすらぎ

グループホームやすらぎの運営主体である中央区むつみ会は、昭和56年9月に地域で暮らす精神障害者を支援するために設立されました。また、自立して生活することが困難な障害者が共同生活を営む援助付きの住居として、昨年の4月にグループホームやすらぎが開所されました。が、開所したにもかかわらず、基本的な開設準備資金も不足している状態なので、しみん基金・こうべの助成金を申請した次第です。おかげさまで頂いた助成金によって冷凍冷蔵庫や洗面所・居室にエアコンを設置することが出来ました。入居している方も「大きい冷蔵庫で嬉しい」台所と一緒だった水回りも用途によって使い分けたり、エアコンがあることで、この冬の寒さも乗り切れそうかな・・・と、とても喜んで下さっています。有り難うございました。本当に多くの色々な方々の善意や理解があってやって来られたあとと実感しているこの頃です。これからも地域との交流を深め、障害者が地域社会でくつろぎながら生活できるよう頑張りたいと思いますので、皆様のご支援・ご協力宜しくお願い申し上げます。(古高 彰子)

### 特定申請合格団体より 4団体

#### 西宮移送サービス

他府県のNPOの方々と会談をしていると、よく言われることがあります。それは、兵庫県での助成金の多さです。私達のように、震災直後に設立された団体にとっては、ごく当たり前のようです。私達は、そのごく当たり前である、しみん基金・KOBENの12年度前期の助成金申請を申請しました。その当時は、NPO法人といえども何処かしらスポンサーが付いて助成を行うという認識しかありませんでした。プレゼンがあり幸いに私達は選出されましたが、驚いたのはその後でした。手続き等により事務所に出入りしたり、事務局の方と話をしたりして、私達が頂く助成金は広く一般市民の皆様から集まったお金で成り立っていることが判りました。そういう話があったのは知りていましたが、実際にそれを認識すると、このお金の1円、1円が善意の塊であるかと思うと使用するのにためらいさえ感じながら、有効に使用していただきました。その後、私達は今度はお金を集める側に回ろうと上部団体の「兵庫県移送サービスネットワーク」で移送サービス助成制度を設立し寄付金を集めています。が、なかなか思ったように集まらないのが現状です。ただ、私達のように助成を受けた団体がこの助成制度の必要性を認識し助成ではないかと思えます。是非とも、みんなでしみん基金・KOBENを盛り上げ市民相互援助の社会を形成しましょう。(事務局 西村真)

#### 神戸いのちの電話

「神戸いのちの電話」は、1981年の開設以来常に、孤独の中で苦しむ人々の心となるべく電話相談事業のパイオニアとしての働きを続けて来ました。その活動は、訓練を受けたボランティア(電話相談員)約170名(2001年1月現在)が担い、月平均で1千件、年間平均で1万1千件以上、20年間20万件以上の相談実績を重ねてきています。相談員は相手の話を傾聴し、受けとめ痛みを共有していきこうとする姿勢を通して「あなたはひとりぼっちではない、いま私があなたの友となつて傍らにいます」との言外のメッセージを伝えることを、その使命としています。「傷ついた人の話を聴く人も、傷つく」と言われるように、大変難しく、しんどい働きです。交通費も自弁の、まったく無償の働きでもありません。このことを相談員が実践できるよう、1回、専門家によるグループ研修(全17グループ)は欠かせません。その謝礼は相談員自ら負担してきましたが、この度、しみん基金・こうべからの助成により、その一部をお支払いいただき、大変ありがたく存じています。

#### ワールドキッズ・コミュニティ

滞日化が進み多様な背景を持つ子どもたちが増加する今日、日本の教育現場において、こうした子どもたちへの対応は未だ不十分である。子どもたちが「違い」を恐れることなく、自己のアイデンティティを確立できる環境作りは必要不可欠と言えるだろう。多様な文化的背景を持つ子どもたちとその親たちが、未だ日本社会に残る単一民族思考を変え、多民族・多文化共生社会を築いてくれることを期待し、私達は活動を続けていく。

家庭教師派遣「マンゴー」・外国人家庭にその国の言葉のできる家庭教師を派遣。子どもが学校生活に不安を感じる家庭とのパイプ役。他、ラジオ番組「多文化子どもワールド」製作・放送。ポルトガル語子ども関係情報誌「APATOTA」、サッカー教室「ピッチブル」、ブラジル人の子どもたちの母語による学習塾「ブラジル理解講座」勉強会参加等。多様な背景をもつ子どもたちへの様々な対応により、堂々と自分の国のことを語れるアイデンティティ確立に向けての活動は、かなり前進した。その背景には、貴基金からの助成の存在は大きい。事業活動運営を充実かつ円滑にするためのコーディネートは重要な役割を担っている現状の中で、行政ではまかなえないその部分(人件費)を貴基金の助成により補うことができ、活動の持続につなげることができた。

#### 東灘・地域助け合いネットワーク

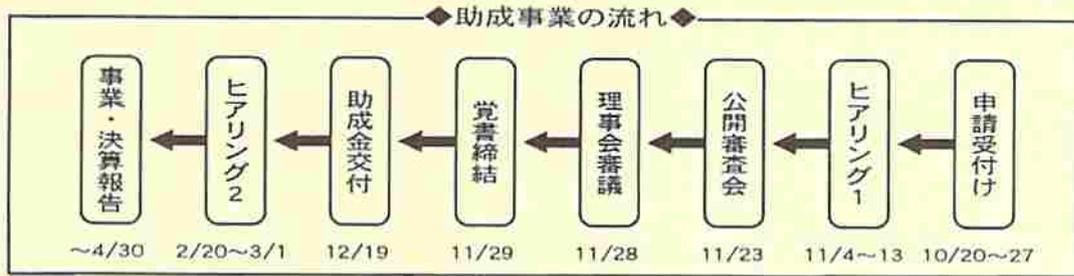
震災後、被災地の緊急支援、生活支援、情報提供を実施すると共に、高齢者ケアとして保険、医療、福祉の連携で「ふれあいサロン」を月に18回実施(東灘区内で5年間613回開催)平成12年4月よりこれらの経験を生かし、市場の中で高齢者、被災者のパソコン教室、カルチャー教室を始める。秋からは生きがい対応型ミニデイサービス開催。移送サービスも福祉車輦で続けている。

「被災された高齢者、被災者のためのカルチャー教室」高齢者が高齢者を支えるカルチャーとして本格的な高齢社会に向けて双方が心身ともに健康で心豊かに過ごすためのきっかけ作りとなった。また、市場の空き店舗を地域住民に開放することで、市場周辺の活性化につながり、住民からも支援される団体になりつつある。人とのコミュニティを重視したカルチャー教室では、途中にタイムインを入れて、おしゃべりを楽しむことができた。また福祉車輦を使って移送サービスができたことで、体や足の不自由な方も人との交わりの中で、社会参加する機会になった。家の中に引きこもりがちなる人も自分にあつたカルチャーを選ぶことで外出の機会になった。助成金は主に講師料と交通費、移送サービス、お茶菓子代にあてました。(事務局 村山メイ子)

平成12年度第2回助成事業

総額500万円

『三度目の公開審査を終わって』



平成12年度第2回助成公開審査が終わり、25の申請団体から8団体が選ばれ助成を受けることになりました。私自身は、理事として3回目の助成であり、その度に事前の申請団体へのヒアリング調査に参加してきました。申請を受けると理事が手分けして訪問ヒアリングをし報告書を作成します。審査員は当日のプレゼンテーションとその報告書を参考にして票を入れます。ヒアリングの際、理事は自分の活動分野とは異なる分野の団体を担当するようになっていきます。先入観による評価を防止するためです。私自身は、建築やまちづくりに関わる活動が多いのでそれ以外の分野を担当しています。今まで8つの団体を訪問しましたが「アルコール依存症者の回復支援」や「女性の自立支援」「知的障害者の作業所」「独居高齢者の支援」「家庭内暴力被害者支援」といった全く知らない活動についてヒアリングすることは非常に新鮮な体験となりました。そして、どの団体もその存在意義に疑問を感じることはありませんでした。どれも社会の仕組みの中で欠けており、必要とされる活動ばかりで、優劣をつけることはできません。公開審査の時は、つい自分がヒアリングした団体が選ばれればと思ってしまいます。すべての団体に助成が出来れば良いのと思っていますが、基金にも限りがあります。また、ボランティアな活動であっても競争と発展が必要だと思しますので審査し選ぶというプロセスは必要だと思っています。

理事としては、額の大小に関わらず助成することで大きな効果を期待できること、今後も活動が継続するところに助成したいと考えています。またしみん基金という特色を活かして、これまで光のあたらなかった草の根的活動も応援したい。また、新しい先駆的な活動も応援したいと考えています。それらを十分に審査員に伝えることが大切です。審査に落ちた団体から、さらし者のようなプレゼンをさせられ理解してもらえなかったという声を聞くことがあります。しかし、いくら活動内容が素晴らしいものであっても多くの市民に理解してもらう努力ができれば活動を継続させることは出来ません。発信する力は、その団体の発展性を表しているとも言えます。公開審査という形は賛否両論ありますが、市民団体がその発信力を磨く場であると考えれば、やはりこの形を続けていく意義は大きいと思わざるを得ません。審査で落ちた団体の皆さんもこれに懲りずに何度でも挑戦していただくようお願いいたします。最後に、今回の結果で少し気になったのは文化活動が選ばれなかったことです。社会的弱者への支援というのは切実性がありアピールし易い面がありますが、文化という育てにくいものを、じっくり長期的に評価できる視点をしみん基金が持つ重要性を付け加えておきたいと思っています。

理事 野崎隆一

★ 合格団体一覧 ★

団体名	事業名
[プラザ5運営委員会]	閉じこもり予防事業
[ふれあい祭りプロジェクト]	ふれあい給食会・ふれあい喫茶
[マザーサポートの会]	試写会・定例会・交流会
[療育スタッフGネット]	ODEKAKEクラブ
[西宮地域たすけあいネットワーク]	オーロラステーションの設置
[在日韓国青年連合兵庫地方協議会]	2000年度 後期コリアン青年 セミナー
[W・Sひょうご運営委員会]	夫・恋人からの暴力の被害女性と子どものサポート活動
[小規模作業所ラムア準備会]	精神障害者就労支援講座



公開審査会のようす

もいちど出会えて  
ありがとう支援事業



「KOBENews 2001」神戸  
21世紀・復興記念事業の一  
環として、被災された方々  
が震災時に避難所などでお  
世話になった支援者の皆様  
をお招きし、地域団体や地  
元のボランティア団体と  
もに感謝の気持ちを込めて  
もてなす「再開の場」活動  
に対して助成する制度です。  
再開の場を開催する期間は  
1月17日～9月30日までと  
なっており、参加人数によ  
って助成額が異なります。(上  
限10万円)

事業実施期間 平成13年1月17日～9月30日  
助成申請受付 平成13年1月17日～9月30日

◆実施する団体は？  
被災者を含む5人以上の  
グループ・団体と地域の  
団体(婦人会、自治会、  
老人クラブ等)又はボラ  
ンティア団体の連名で申  
請してください。

◆対象となる活動は？  
再会の交流会、避難所  
の同窓会など(茶話会、  
記念植樹など)

◆助成額は？  
全体の活動費の1/2相  
当で、参加人数により30  
人以下で3万円、31人以  
上60人以下で6万円、61  
人以上は10万円。事前交  
付致します。

◆審査は？  
審査員会を設置して行  
います。

◆活動報告は？  
活動が終わったあと速や  
かに(1ヶ月以内)所定  
の報告書に活動の写真を  
添え事務局に提出してく  
ださい。

◆記念グッズもあります  
プレゼントのカタログを  
用意しております。

お問い合わせは  
事務局までお気軽に！

NPO法人への  
税制支援実現に寄せて

税制優遇？



平成13年度税制改正大綱で、かね  
てより要望の多かったNPO法人  
への寄付金控除などの税制支援策  
が打ち出された。特定非営利活動  
促進法が制定され、NPOが私法  
体系上初めて正当に位置付けられ  
てはいたが、今回の措置によって  
税法系上もNPOという存在が明  
確に認知されるに至ったことと、  
ともかくもNPOの独自の税制支  
援が実現したという意味では、今  
回の措置は確かに評価されるべき  
ものである。しかし、折角の支援  
策の現実的な効果を考えれば、我々  
として疑問符を付さざるを得まい。  
優遇措置は全てのNPO法人を対  
象とするものではない。  
①事業活動の50%以上が会員以外  
を対象とした活動であること  
②補助金を除く総収入における寄  
付金や助成金の割合が3分の1  
以上であること  
③一市区町村を越えて活動してい  
ること  
等の要件を満たした、いわゆる認  
定NPO法人に限られている。  
NPO法人が一般の社団法人など  
と異なり、「認証」という簡易な  
手続きで確立できることを考えれ  
ば、認定NPOに限定することも  
やむを得ないであろうし、認定の  
要件が曖昧ではなく明確に規定さ  
れている点は評価できる。

しかし、現実問題として、これら  
の要件を全て具備するNPO法人  
が一体いくつ存在するというの  
だろうか。今回の優遇措置でどれ  
だけのNPOが支援されるとい  
うのだろうか。有名無実の優遇措  
置が講じられたというだけでは、  
特定非営利活動促進法制定時の付  
帯決議の趣旨が全うされたなど  
は到底いえない。希望をいえばき  
りがないが、もっと実態に即した  
認定要件設定して欲しかったと思  
う。今後は認定要件の緩和を求め  
る運動が必要であろう。しかし、  
他方で今回の優遇措置は社会が  
NPOという存在に与えた現時点  
での評価であると冷静に見ること  
も必要である。NPO活動に対す  
る社会的評価を高め、NPOに対  
してさらに広汎かつ一般的に税制  
上の優遇措置を付与してもよいと  
の社会的認知を勝ち取るよう、今  
後も充実した公的サービスの供  
給に全力で取り組むべきことこそ  
肝要である。

常務理事 戎正晴

イングリット・フジ子・ヘミング  
カウントダウン・チャリティー・コンサート



フジ子・ヘミングさん

戦争と科学技術の20世紀に別れを告げ、カタストロフィ(破滅)に脅え、僅かな希望を抱えての21世紀への挨拶(カウントダウン)を私は大阪・フェスティバルホールの客席で行った。私たちは、フジ子・ヘミングさんのリストの「ラ・カンパネラ(鐘)」や「ハンガリー・ラプソディー」の名演に魂を揺さぶられ、特別な場所、特別な時に立ち会っていることの興奮にざわめいた。0時。天井から無数の風船が舞い降りてきた。壇上にしみん基金・こうべの黒田理事長が呼ばれ、「動物愛護団体」の方とともに、このコンサートの収益を、それぞれに200万円フジ子さんから受け取った。フジ子・ヘミングは伝説に包まれたピアノニストである。建築家のスエーデン人とピアノを勉強に留学していた母が結婚。フジ子が生れた。しかし戦争が一家を離れ離れとし、母の厳しい指導で「天才少女」としてデビューし、世界的指揮者バーンスタインに認められコンチェルトなど華々しく活動していたフジ子を、今度は聴覚を失うという悲劇が襲う。(音楽家としての聴力であり、生活的には聞こえる)30年余りの外国生活の終止符を打って帰国。20世紀のカオス(混沌)のドラマを奔放にして重厚な暗い情熱を秘めた音楽でスーパースターとなる。

このコンサートでしみん基金・こうべに寄付をいただくのに大きな役割を果たした女性について紹介しておく。郡安ひろ子さん。奈良にある弁護士事務所勤務のかたわら「冬のチェンバロ」という音楽会の企画に関わってこられ、その内容が、単に呼んできて演奏したという以上の、その演奏家の最上のものを引き出そうとしているのにも感心させられる。昨年1月、神戸朝日ホールでの「フジ子・ヘミング・チャリティーコンサート」もアート・エイド・神戸のためのコンサートにしていたら、収益40万円をご寄付いただいた。ベジタリアンであるフジ子さんのために有馬温泉に宿をとって、特別な料理をお願いしておもてなした。ポランティアで出演いただくフジ子さんへのせめてものお礼であった。フジ子さんは「温泉なんて何十年ぶりかしら」とことのほか喜ばれた。演奏会のおと、フジ子さんを馴染みの元町の居酒屋へお連れした。夜9時を過ぎていた。注文した野菜中心の料理をもりもりと食べられた。聞けば、朝から何も食べてなかったそう。あの煌々ような輝きのある力強い秘密はこの太い指にあると、横に座って話しをさせていた。だきながら納得した。じつは、このコンサートの時にも郡安さんから寄付先の相談を受けてしみん基金・こうべの資料を渡したのだけど、その時はまだ時期尚早ということで見送られ、今回のことに繋がった。全く、目立たないところで、素晴らしい仕事を仕掛ける人がここにいる。そのことがアーティストに伝わり、その演奏がまた人を動かす。そして、その成果を私たちがいただき、私たちを通じてまた、他の人へと繋がっていく。地下水脈のような、こうした流れこそが、ゆっくりと人が気付かないうちに社会を動かしているのかもしれない。

アートサポートセンター 島田誠



スピカコンサート

1月28日(日)13時~16時。ファミリアホールにて開催され、約200名お客様が来られました。このコンサートでは、合計5団体の活動紹介の 슬라이ド とブリスを出展させていただきました。当日参加された方々、コンサートスピカ実行委員会の皆様、ありがとうございました。

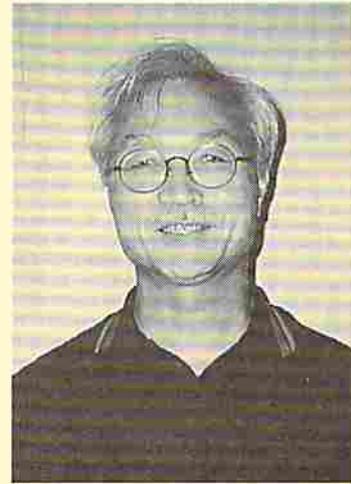
高層ビルが立ち並び一角にある小さな公園。それがボケットパーク。皆様の活動をスライドで写しながら、ハープ等の生演奏でジョイントしたコンサートの名前でもあります。スピカは若い音楽家への応援からスタートしましたが実務を担当しているのが腸の難病「クローン病」をもつ女性であった事からコンサートの内容は社会的なことを盛り込みながら今までの「かたち」にとらわれない様々な試行をして参りました。難病II「死」ばかりでなく難病II「これからも生き続けなければならぬ」という逆の苦悩もあることは案外私たちの気のつかない所かもしれません。人は誰かしらに助けられて生きています。そんな実感を感じずもっている女性が企画した「ボケットパーク」そんな思いの一つの結晶でもあったと思います。最後に「しみん基金・KOBENews」様の後援、当日ご出展頂きました各団体に厚く御礼を申し上げます。コンサートスピカ実行委員会

代表 山本俊喜 担当 櫻井良子

復興記念コンサート

1月17日19時。関西西宮信用金庫本店のかんしんホールにて女優の竹下景子さんがピアノに合わせ、震災にちなんだ詩を朗読するコンサートが開催された。詩は一般から公募し、約100点の応募の中から、優秀賞と佳作計3点選ばれた。竹下さんは「震災の痛みや悲しみから再生への意欲が強く感じられます。6回目の1・17を迎えるにあたり、詩を通して前向きな生き方に触れ、勇気をいただいた。今後とも応援しています」と話され、「しみん基金・KOBENews」を含む5つのNPOに計35万円を寄付されました。ありがとうございました。

理事の横顔



桃山学院大学社会学部・教授  
石田 易司

1998年、いろいろあった末に特定非営利活動促進法（NPO法）が施行された。そのいろいろあった内の一つに、活動内容がある。12番目に滑り込んだのが、助成など多様な市民活動をバックアップする事業だ。しみん基金・こうべはこの12番目の事業を主に担っている。

しみん基金・こうべの助成事業は、できるだけ公平に、必要な団体に必要な助成が出来るように、選考会を公開にしている。その公開選考会が短い時間の中で目的を達せられるように、理事が分担して、応募団体一つひとつにヒアリングに回る。それは大変な労力と時間とセンスのいる仕事になる。

それらは、どこにでもある問題をちよつとの支援で解消できるような活動が多いのだろうか、少数者の問題であったり、新しくこの社会に出てきたテーマであったり、問題は明確でも解決の手段が見えなかったり、関わっている人はある意味で孤軍奮闘の様子なのだ。元来、地域の人みんなの問題なのに、気づいて何とかしようと思っただけが、がんばっているということだが、とても多いように感じる。

少数の団体に対してでも、しみん基金、こうべがお金を出して経済的に支えることの意味は大きい。しかし、それと同じくらい、この助成制度を通じて、それぞれの団体が抱えている問題や団体のたいへんさの实情を、地域の人に知ってもらえることが大きいし、その問題を理解してくれる外部の人の存在を、その団体の人に示すことの意義は大きい。

たくさんの助成希望団体があるにも関わらず、すべての団体を助成することは現状では難しいが、理事の一人ひとりが自分の足で現場を訪れていることを今後も大切にしたい。

お知らせ

① オリエントコーポレーション（オリコ）のご協力により間もなく「しみん基金・KOBÉ」カードが発行されます。カード加入のご協力宜しくお願い致します。

② 新神戸オリエンタル劇場で上映される前売チケットをしみん基金・こうべ事務局で販売しています。売上の一部をご寄付いただいておりますので、購入のご協力をお願い致します。  
★「コルチャック先生」  
(3/13~19)  
★「老親」  
(4/13~22)

会員数とご寄付の報告

(2000年7月~2001年2月)

- ◆ 正会員 個人41名 団体6名 ◆ 賛助会員 個人93名 団体22名
  - ◆ 寄付・募金合計金額 15743786円
  - ◆ 寄付者・募金一覧 (敬称略)
    - 藤原靖子・中島秀男・スピ力実行委員会・新神戸オリエンタル劇場・iウオーク・佐藤定男・瀬戸口仁三郎・近畿労働金庫・神戸MOMENTUM・フェスタin湊川・井上平三・アートエイド神戸実行委員会・市民活動センター・兵庫県移送サービス・しみんくりーんうをーく・まぶい上映会・日本聖公会三光教会・室崎益輝・和田弥彦・柳田みどり・柳田節子・門前三枝子・源水進・柴田多恵・柳田邦男・山口真司・兵庫人権フェスタ2000・海文堂書店・被災地NGO協働センター・福田和昭・関西西宮信用金庫(復興記念コンサート)・小川寿美子(もうひとつのお返し)・岩下明子・キョードー大阪(フジテレビヘミングコンサート)・新福尚隆・社団法人日本青年会議所
- 皆様、ありがとうございました。

◆ あ と が き ◆

前号は昨年7月、暑い盛りに発行したことを覚えていますが、あれから半年、決して忘れていたわけではありません。新しい世紀に入り、新しいニュースをお届けします。今回は内容も盛り沢山(当たり前)でも、事務局は大混乱!助成事業、委託事業、iウオーク、様々なイベントへのブース出展と息つく暇ありませんでした。ニュース発行でやっと一息?いえいえ、コワイ決算が待ち構えています。次回、またお会いする日を楽しみに?にベンを置きます。(せ)

「しみん基金・KOBÉ」の運営を支えて下さる賛助会員と寄付を募集しています。

個人会員 年間 3,000円  
賛助会員 年間 10,000円

お申し込みは電話・FAX・電子メールなどで、お名前・住所・電話番号をお知らせ下さい。

振込口座 さくら銀行 三宮支店 普通7965892  
 みなと銀行 本店営業部 普通1597921  
 近畿ろうきん 神戸支店 普通4161854  
 郵便振替 00930-6-310874  
 口座名義 「しみん基金・こうべ」